

1. 背景とねらい

昭和61年度に普及に移した葉面散布によるビターピット防止剤の使用法について、散布回数や時期についてさらに検討したところ、激発園以外では散布回数の減少が可能であったためこれを追補し、また、登録のある他の防止剤の使用法を併せて参考に供する。

2. 技術の内容

- 1) ビターピット防止剤の種類・使用園地を表-1のとおりとする。

表-1 ビターピット防止剤の種類

資材名	成分含有量	使用濃度	使用園地
ストピット20	塩化カルシウム 20% 炭酸カルシウム 75%	100 倍	ビターピットの発生が予想される園地で予防散布
カルクロン	塩化カルシウム 72%以上	360 倍	

- 2) 散布時期、回数は、落花10日後～7月下旬に、3～5回とし、例年発生が少ない園地では3回でよい。

- 3) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意事項

- 1) カルクロンは葉害回避のため、必ず炭酸カルシウム水和剤（クレフノンまたはアプロン）100倍を加用する。
- 2) その他、昭和61年度の参考事項で掲げた項目を参照のこと。

4. 当該事項にかかる試験研究課題

着色促進及び熟期斉一化など果実品質向上技術の確立

- 1) ビターピット等果実障害防止法

新品種、新台木利用等高生産のための適地判定と産地育成

- 2) れき質造成畑におけるわい化りんご早期生産安定技術

5. 参考文献・資料

- 1) 昭和62年岩手県園芸試験場果樹試験成績書
- 2) 昭和62年度地域農業開発拠点試験地設置事業試験成績書

6. 試験成績の概要

- 1) 東和町東和中部りんご生産組合ほ場での試験（昭和62年）

(1) 供試品種 王林/M26 8年生

(2) 試験区の構成

試験区			散布日 (月・日)					散布量
資材	濃度(倍)	散布回数	6.8	6.19	6.30	7.10	7.20	
① ストピット20	100	3回	○	○	○			動噴で10a
② ストピット20	100	3回	○		○		○	当り500㍓
③ ストピット20	100	4回	○	○	○	○		散布
④ ストピット20	100	5回	○	○	○	○	○	
⑤ カルクロン+クレフソ	360+100	3回	○	○	○			
⑥ カルクロン+クレフソ	360+100	5回	○	○	○	○	○	
⑦ 無処理								

(3) 試験結果

試験区	供試本数(本)	ビタ-ピット発生率(%)
① ストピット20 3回連続散布	10	5.0
② ストピット20 3回隔回散布	9	3.3
③ ストピット20 4回散布	10	1.8
④ ストピット20 5回散布	10	3.1
⑤ カルクロン+クレフソ 3回散布	10	1.6
⑥ カルクロン+クレフソ 5回散布	10	4.1
⑦ 無処理	15	13.1

2) 藤沢町保呂羽りんご生産組合ほ場での試験(昭和62年)

(1) 供試品種 ジョナゴールド、王林/M26 5~7年生 各区10樹供試

(2) 処理方法

ストピット20を100倍で5月28日、6月2日、7月2日の3回、農薬散布時に混用し、
S.Sで約400㍓/10a散布

(3) 試験結果(数字は、ビタ-ピット発生率)

試験区	ジョナゴールド	王林
① ストピット散布区	15.8	11.4
② 無処理区	25.3	20.9